



KX-E300

カセットデッキ



このたびは、ヤマハカセットデッキKX-E300をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
KX-E300の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管してください。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などの記入がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがあります。

取扱説明書

安全上のご注意(安全に正しくお使いいただくために)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例



気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば▲は「感電注意」を示しています。



してはいけない行為を表しています。
たとえばⓧは「分解禁止」を示しています。



必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なおいや音がある。 ● 煙が出る。
 - 内部に水や異物が混入した。
- そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。 ● ステープルで止めない。 ● 加工をしない。
 - 熱器具には近づけない。 ● 無理な力を加えない。
- 芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺 ● 加湿器を過度にきかせた部屋
 - 雨や雪、水がかかるところ
- 水滴の混入により火災や感電の原因となります。



接触禁止

雷がなりはじめたら電源プラグには触れない。

感電の原因となります。



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。



必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



必ず行う

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。


警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。



禁止

本機のテープの挿入口にもものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- 本機の振動によりものが落下してけがの原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。


注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。



禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。



必ず行う

電源を入れる前や再生を始める前には、アンプの音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。



プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。



接触禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っばらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。

- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。



禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。



禁止

テープの挿入口には手を入れない。

本機のメカニズムに手を引き込まれ、けがの原因となることがあります。



必ず行う

電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。



禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。



注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れたまましばらく放置してください。



禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

おもな特長

- リバースメカニズムによる両面連続再生
- システム接続によるシンクロ録音・タイマー録音機能
- ドルビー B/C NR 搭載による雑音の少ない再生・録音
- ピークホールド機能付ピークレベルメーター

ドルビーノイズリダクションはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの登録商標です。

もくじ

| | | | |
|-----------------------------|----------|-------------------------|----------|
| おもな特長 | 1 | 再生 | |
| 付属品について | 1 | 早送り／巻戻しをする | 4 |
| カセットテープの取り扱いかた | 1 | 曲の頭出しをする | 4 |
| 各部の名称 | | 録音 | |
| フロントパネル | 2 | テープカウンター | 5 |
| ディスプレイ | 2 | 大切な録音を誤って消さないために | 5 |
| 接続 | | 故障かな?と思ったら | 6 |
| システム接続する | 3 | 仕様 | 7 |

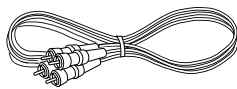
付属品について

はじめに、次のことをお確かめください。

1. 保証書にお買い上げ店名を記入してもらいましたか。
2. 付属品はすべてそろっていますか。

<付属品>

ステレオピンケーブルx2
(長さ：1.0m)



システム接続ケーブルx1
(長さ：1.0m)



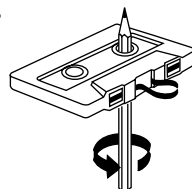
カセットテープの取り扱いかた

テープについて

- 120分以上のテープは薄く伸びやすいため、できるだけ使用しないでください。テープが機械に巻き込まれたりすることがあります。
- 本機は自動的にテープの種類（ノーマル／ハイ／メタル）を判断しますので、どの種類のテープもご使用になれます。

テープのたるみを取るときは

- テープをトレイに入れる前に、テープのたるみを鉛筆やボールペンで取ってください。



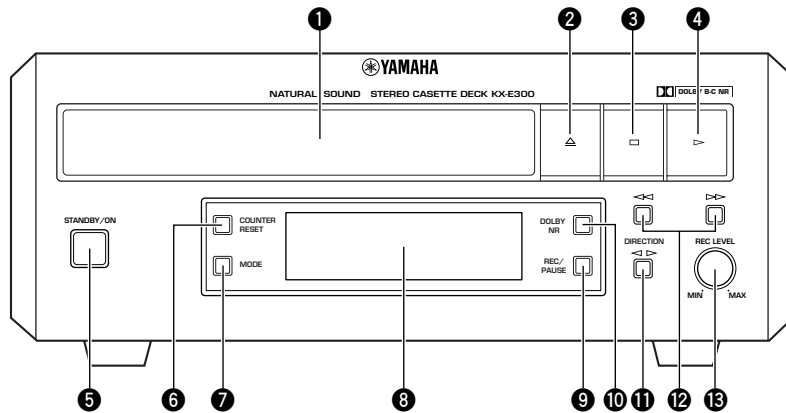
ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、となり近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



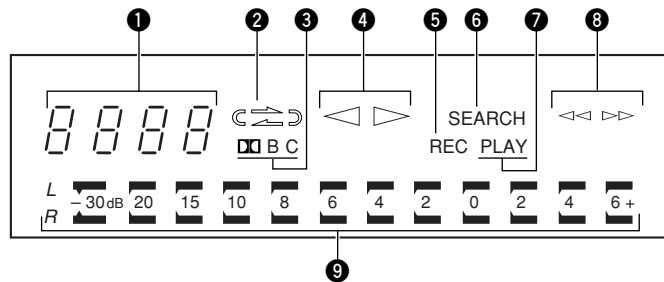
各部の名称

フロントパネル



- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|
| ① テープトレイ (P.4) | ⑧ ディスプレイ (P.2) |
| ② △(オープン/クローズ) ボタン (P.4) | ⑨ REC/PAUSE (録音/録音一時停止) ボタン (P.5) |
| ③ □ (停止) ボタン (P.4、5) | ⑩ DOLBY NR (ドルビーNR) ボタン (P.4、5) |
| ④ ▷ (再生) ボタン (P.4、5) | ⑪ DIRECTION (◀/▶) ボタン (P.4、5) |
| ⑤ STANDBY/ON (スタンバイ/オン) スイッチ (P.4、5) | ⑫ ◀◀/▶▶ (巻戻し/早送り) ボタン (P.4) |
| ⑥ COUNTER RESET (カウンターリセット) ボタン (P.5) | ⑬ REC LEVEL (録音レベル調節) つまみ (P.5) |
| ⑦ MODE (モード) ボタン (P.4) | |

ディスプレイ



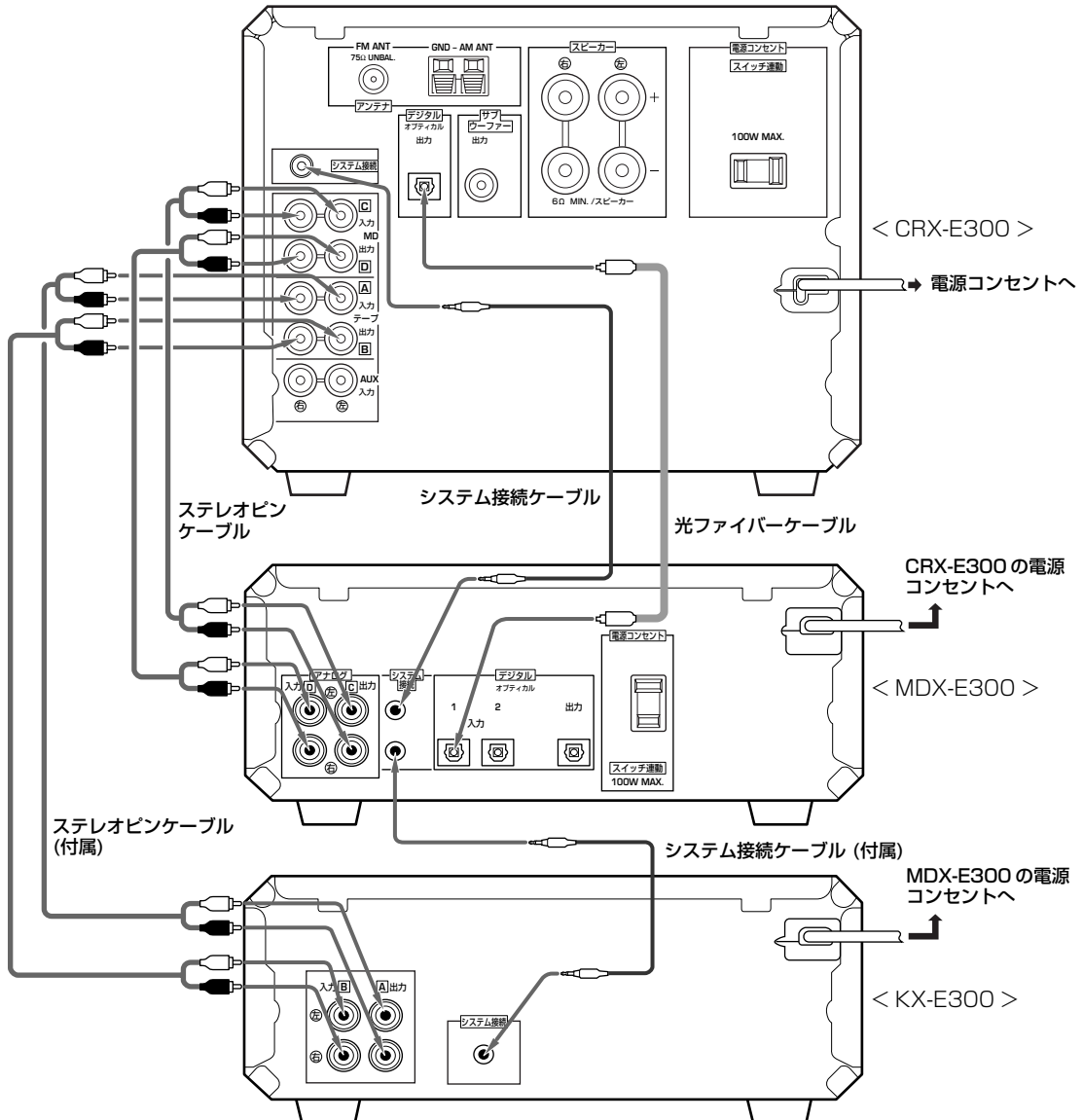
- | | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| ① テープカウンター (P.5) | ⑥ SEARCH (サーチ) インジケータ (P.4) |
| ② 走行モードインジケータ (P.4、5) | ⑦ PLAY (再生) インジケータ (P.4) |
| ③ ドルビーNR B/C インジケータ (P.4、5) | ⑧ ◀◀/▶▶ (巻戻し/早送り) インジケータ (P.4) |
| ④ ◀/▶ (走行方向) インジケータ (P.4、5) | ⑨ ピークレベルメータ (P.5) |
| ⑤ REC (レック) インジケータ (P.5) | |

接続

接続が完了するまでは、絶対に本機の電源コードをコンセントにつながないでください。

- 接続する機器の入力／出力端子に正しく接続してください。
- 接続する際は、それぞれの機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- 本機をチューナーなどの近くに設置すると雑音の原因となるため、チューナーなどからは離して設置してください。
- システム接続ケーブルを使って、ヤマハ Piano Craft シリーズの機器のシステム接続端子どうしを接続すると、本機に接続した機器と連動して操作することができます。

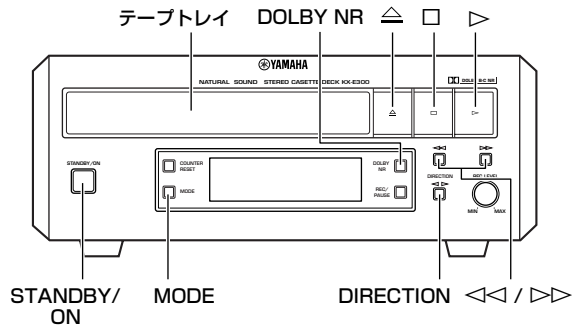
システム接続する



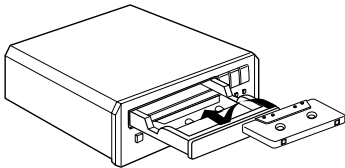
- 付属のステレオピンケーブルを使って、本機のアナログ出力端子 [A] と CRX-E300 のアナログ入力端子 [A] を接続します。本機のアナログ入力端子 [B] と CRX-E300 のアナログ入出力端子 [B] を接続します。
- システム接続ケーブルを使って、本機と MDX-E300 (または CRX-E300) のシステム接続端子を接続します。
- スタンバイ時の消費電力を抑えるため、本機の電源コードは MDX-E300 (または CRX-E300) 背面の電源コンセントへ接続してください。

再生する前に

- 本機のSTANDBY/ONスイッチを押して、電源を入れます。
- 接続したレシーバー（またはアンプ）の入力ソースを「TAPE」にします。

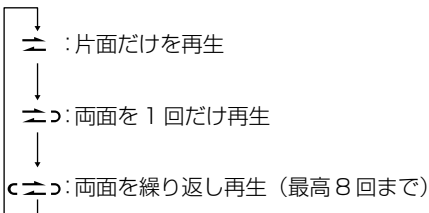


1. △ボタンを押して、テープトレイを開け、テープを入れる



2. △ボタンを押して、テープトレイを閉める
3. MODEボタンを押して、テープの走行モードを選ぶ

MODEボタンを押すたびに、テープの走行モードが以下のように切り換わります。ディスプレイの走行モードインジケータが点灯します。



4. DIRECTION <▷> ボタンを押して、再生する面を選ぶ

A面を上にしてテープを置いた場合、▷インジケータ点灯時はA面、<▷インジケータ点灯時はB面を再生します。

5. DOLBY NRボタンを押して、ドルビーNRを選ぶ

- テープを再生するときは、録音したときのドルビーNRと同じ設定を選んでください。
- ボタンを押すたびに、ドルビーB NR→ドルビーC NR→オフの順で切り換わります。

6. ▷ボタンを押して、再生する

再生中は、PLAYインジケータが点灯します。

再生を止めるには

□ボタンを押す

テープを取り出すには

△ボタンを押す

テープトレイを開けてテープを取り出します。

音量を調節するには

レシーバー（またはアンプ）の音量調節つまみで調節する

早送り／巻戻しをする

停止中に、▷▷ または <<< ボタンを押す

テープの早送り／巻戻しをします。

曲の頭出しをする

再生中に、▷▷ または <<< ボタンを押す

次の曲の頭または再生中の曲の頭へ移動します。

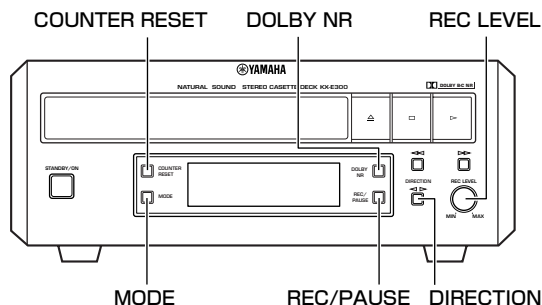
頭出し中はSEARCHインジケータと、▷▷ または <<<インジケータが点灯します。

ご注意

- 次の場合、正しく頭出しできないことがあります。
 - テープの曲間（無音部）が4秒以下のとき
 - 録音レベルが低すぎたり、フェードインで始まる曲またはフェードアウトで終わる曲、曲間に大きな雑音記録されているとき
 - テープの始めや終わりの部分を再生しているとき

録音する前に

- 本機の STANDBY/ON スイッチを押して、電源を入れます。



1. DIRECTION <▷> ボタンを押して、録音したい面を選ぶ

- A面を上にしてテープを置いた場合、▷インジケータ点灯時はA面、◁インジケータ点灯時はB面に録音されます。
- テープの両面に録音したい場合は、▷インジケータを点灯させます。

2. REC/PAUSE ボタンを押す

録音待機状態になり、RECインジケータが点滅します。

3. MODEボタンでテープの走行モードを選ぶ

MODEボタンを押すたびに、テープの走行モードが以下のように切り換わります。ディスプレイの走行モードインジケータが点灯します。

- ☐ : 片面だけに録音するとき
- ☐☐ : 両面に録音するとき

4. REC LEVELつまみを回して、録音レベルを調節する

雑音やひずみの少ないきれいな音で録音するためには、録音するソースの、一番音が大きい部分を再生し、ピークレベルメーターの揺れが+2 dBを超えないようにREC LEVELつまみを回して調節してください。

5. DOLBY NRボタンを押して、ドルビーNRを選ぶ

カセットテープを再生すると、「サーツ」というテープヒスノイズが聞こえます。耳障りなこのテープヒスノイズを減らすため、本機ではDOLBY NRシステムのBおよびCタイプを採用しています。ドルビーB NRでは高域周波数において約1/3 (10 dB) の改善効果が得られます。ドルビーC NRでは、人間の耳がもっとも敏感な帯域 (2 kHz から8 kHz) で約1/10 (20 dB) の改善効果が得られ、さらに10 kHz以上の帯域ではテープの高域MOL (最大録音レベル) 特性を改善することができます。

ドルビーNRシステムは、録音・再生を通じてノイズを低減しますので、再生または録音時のみドルビーNRを使用してもノイズを減らすことはできません。テープを再生するときには、録音したときのドルビーNRと同じ設定にしてください。

6. ▷ ボタンを押して録音する

録音中は、RECインジケータとPLAYインジケータが点灯します。

7. ソースを再生する

システム接続ケーブルでヤマハCDレシーバーCRX-E300またはMDレコーダーMDX-E300に接続している場合は、CDまたはMDの再生に本機を連動させてテープ録音することができます (シンクロ録音)。手順5のあと、接続機器の▶/⏮ ボタンを押すと、自動的に録音が始まります。また、タイマー録音についてはCRX-E300の取扱説明書をご覧ください。

■ 録音を一時的に止めるには

REC/PAUSE ボタンを押す
再び録音を始める場合は、▷ ボタンを押します。

■ 録音を止めるには

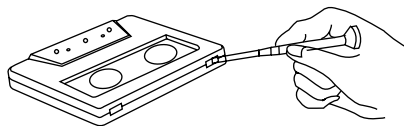
□ ボタンを押す

テープカウンター

テープの走行距離を「0000」から「9999」までの数字で表示します。テープの位置を知る目安としてお使いください。COUNTER RESET ボタンを押すと、テープカウンターは「0000」に戻ります。

大切な録音を誤って消さないために

テープの誤消去防止用のツメを折って取り除いておくと、録音ができなくなり大切な録音を誤って消去することがありません。もう一度録音したり、録音を消したいときは、ツメの折った部分を、セロテープなどでふさいでください。



あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。

● お問い合わせ先
(社) 私的録音補償金管理協会 Tel. 03-5353-0336

故障かな？と思ったら

下記のようなときは故障でないことがありますので、修理やサービスをお申し付けになるまえにご確認ください。対処してもなおらないとき、または下記以外の異常があるときは、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店かヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問合せ、サービスご依頼ください。

| こんなとき | 考えられる原因 | なおしかた |
|------------------|--|--|
| 正常に動作しない。 | 製品の使用中に、強い外来ノイズ（衝撃、過度の静電気などの、または落雷による電源電圧の異常など）を受けた。または誤った操作をした。 | 本機のスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。約 30 秒後にもう一度差し込み、電源を入れてください。 |
| 再生／録音時にテープが動かない。 | テープがたるんでローラーに巻きついた。 | 鉛筆などでリールを回して、テープのたるみを取ってください。 |
| 録音できない。 | テープの誤消去防止用のツメが折り取られている。 | テープを取り替えるか、ツメをセロテープなどの粘着テープでふさいでください。 |
| | ヘッド部が汚れている。 | ヘッド部を清掃してください。 |
| 音が歪んだり、消えたりする。 | ヘッド部が汚れている。 | ヘッド部を清掃してください。 |
| | テープが消耗している。 | テープを取り替えてください。 |
| 音質が悪い。 | 録音時と違うドルビー NR を選択している。 | 録音時と同じドルビー NR を選択してください。 |
| | ヘッド部が汚れている。 | ヘッド部を清掃してください。 |
| 音が不安定。 | ヘッド部が汚れている。 | ヘッド部を清掃してください。 |
| 雑音が入る。 | ヘッド部分が帯磁している。 | 市販のテープ型消磁器（ヘッドイレイザー）を使用して、ヘッド部を消磁してください。 |
| | テープが消耗している。 | テープを取り替えてください。 |
| テープが再生中や録音中に止まる。 | カセットからテープのたるみが出た。 | 鉛筆などでリールを回して、テープのたるみを取ってください。 |
| | テープが消耗している。 | テープを取り替えてください。 |
| シンクロ録音できない。 | システム接続ケーブルが接続されていない。 | 本機と他の機器をシステム接続ケーブルでしっかり接続してください。 |
| 聞きたい曲の頭出しができない。 | 曲間の無音部分が短すぎる。 | 曲間の無音部分が 4 秒以上であれば、聞きたい曲の頭出し機能が働きます。 |
| | 曲の中に極端に静かな部分がある。 | |
| | 会話や騒音などが録音されている。 | |

お手入れ

汚れたヘッド部やローラーは音質を悪くしたり、テープが機器に巻き込まれる原因になります。市販のクリーニングテープできれいにしてください。

仕様

形式 オートリバースステレオカセットデッキ

周波数特性 (-20 dB)

タイプ1(ノーマル) 30~15,000 Hz

タイプ2(ハイ) 30~16,000 Hz

タイプ4(メタル) 30~18,000 Hz

ワウフラッター 0.09 %、W.RMS

S/N比 54 dB (ドルビーNR オフ)

62 dB (ドルビーB NR オン)

70 dB (ドルビーC NR オン)

高調波ひずみ 1.0 %

電源・その他

電源 AC 100V 50/60Hz

消費電力 9 W

待機時消費電力 3 W

寸法 217 × 88 × 291 mm
(幅 × 高さ × 奥行)

質量 3.0 kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

- **保証期間**
お買上げ日より1年間です。
 - **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
 - **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。
 - **修理料金の仕組み**
 - ◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
 - ◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
 - ◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
 - **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年(テープデッキは6年)です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
 - **持ち込み修理のお願い**
故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。
 - **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。
 - **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。
 - **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。
摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。
摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など
- ※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問い合わせは

お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。

TEL (053) 460 - 3409

FAX (053) 460 - 2777

住所 〒430-8650

静岡県浜松市中沢町 10-1

ご相談受付時間 10:00~12:00, 13:00~18:00

(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874 - 3787

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



★永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町 10-1

ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>